

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100674
法人名	医療法人裕智会
事業所名	グループホーム アルプスの風
所在地	鹿児島市荒田1丁目11-1 (電話) 099-296--8008
自己評価作成日	令和5年2月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・新型コロナウイルス感染予防の為に鹿児島市感染状況を確認しながら面会を実施。又、ライン面会等も入居者・ご家族の希望に沿って随時実施し入居者とご家族との繋がりが、途切れる事のないようにしている。
- ・面会時はパーテーション越しでの面会を行い面会人数や時間の制限を設けている。面会前の体温測定や手指消毒、換気を行い面会終了後も同様に環境整備を実施している。
- ・コロナの為外出等が実施出来ない為職員は、入居者の方と一緒に季節に応じた施設内装飾作り等をレクリエーションの一環で行っている。又、施設屋上でお茶会をしたり散歩を行ったりと外気に触れる機会を作るなど閉塞感とならないように工夫している。
- ・運営推進会議は3密を裂け、感染症対策をとりながら開催しているが、コロナ過の為開催が困難な際には、文書にて各関係の方に意見を求め、それらを施設運営に反映できるように努めている。
- ・ラジオ体操は毎日実施し、室内でのレクリエーションや物づくりやグループホーム内の歩行練習を行い活動量が低下しないようにと考えている。
- ・定期的に研修委員会職員を中心に院内研修等を実施し身体拘束、権利擁護、感染症や虐待防止、接遇等の内容を動画等を個人で視聴してレポートの提出を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市役所から車で10分程の荒田地区の中心部に法人母体(協力医療機関)のビルの3・4階に平成23年に開設している。1階が協力医療機関、2階に通所リハビリテーションが併設されており、これらの事業所は法人本部を中心に情報の共有や職員研修、災害時の協力体制を構築している。幹線道路から少し入っているため騒音等は無く屋上からは桜島も望め、利用者は日常的に散歩や日光浴を楽しんでおり、周辺には郵便局や薬局、金融機関、公園、スーパーマーケット、個人住宅等が立ち並んでいて利便性の良い環境である。

管理者および職員は、利用者の尊厳や人格、想いを大切に3項目の理念を意識しながら寄り添う姿勢で、生きがいのある平穏な暮らしへの支援に努めており、日々の生活は自己決定を尊重し余暇時間の過ごし方も意向に添って柔軟な支援に取り組んでいる。また、開設以来家族や地域との交流に努めてきており、コロナ禍の中でも感染状況を把握しながら家族との面会をLINEの活用や玄関先で短時間で実施するなど工夫し、散歩時の地域の人との挨拶や他科受診時の家族との外出、高校生の職場実習、訪問美容の受け入れ、地域の人から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアの相談にはタブレットも活用して対応するなど円滑に交流する関係を継続している。現在、買い物や外出、外泊、外食、一時帰宅等は控えているが、コロナ禍が収束したら再び取り組み認知症カフェも再開する意向である。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える信頼と協力のある人間関係を築いており、日頃の業務の中や職員カンファレンス、ユニットミーティング、個別面談等で要望や意見を出し合って運営やサービスの向上を図っている。日常的にケアに対する助言や研修を実施し資格取得へのバックアップに努めており、勤務シフトには有給休暇取得の促進や個人的事情も配慮するなど働きやすい環境の整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念に基づいた事業所理念をユニット入りロイヤリティステーション内に掲示し全職員が理念の理解し共有しケアの実施に繋げている	理念に沿って利用者の人格や尊厳を大切に、その人らしい平穏な生活が過ごせる支援に努めている。運営理念は目に付き易い玄関やステーションに掲示しパンフレットにも掲載して周知を図り、日頃の業務の中や毎月の職員カンファレンスで意見交換等を行って、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により外部との交流が困難な状況であるが県内の発生状況等を見ながら感染症対策を徹底する事で運営に支障のない範囲内で可能な限り実施出来るように努めている	地域の情報の把握に努め、円滑に交流する関係を築いている。感染予防に配慮しながら家族との面会や散歩時の地域の人との挨拶、実習生や訪問美容の受け入れ、地域の住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談にはタブレットも活用して対応するなど円滑な交流に取り組んでいる。コロナ禍が収束したら買い物や外出、カフェ等を再開したい意向である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	現在コロナ禍の為開催していないが収束後には認知症カフェを再開し、地域に向けて認知症に関しての理解や支援方法を発信していく予定		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回民生委員や長寿安心相談センター職員、入居者・ご家族を招いて開催。コロナ禍の為書面開催にて代替開催としている。頂いた意見を施設運営に取り入れている。	会議は、利用者、家族、民生委員、市長寿安心センター等の参加で隔月毎に開催し、利用者の現況やインシデント、ヒヤリハット、行事等の報告や意見交換に努めているが、現在はコロナ禍に配慮して書面での会議が続いている。各委員には事前に議題に沿って意見、要望を出して貰い、職員カンファレンス等で協議して運営やサービスの向上に繋げており、委員には会議録で報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設運営に係る各種手続きや相談は市の担当者や相談窓口を通じて運営へのアドバイスを受けて、協力関係を築き維持できるように努めている	市役所窓口に出向いたり電話等で介護保険や各種制度、感染症予防に関する協議、生活保護受給中の利用者の処遇に関する連携等を行い、助言や指導を貰うなど協力関係を築いている。市主催のZoomによる会合や研修にも参加してホームの運営やサービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の設置及び3か月に1回の会議を行い、定期的な院内研修の参加、委員会議事録を何時でも閲覧出来るように職員の環境整備や入居者へのケアの方法を考え身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や高齢者虐待の無いケアについては運営規定や重要事項、利用契約書に明記され、法人全体での計画的な研修の実施や職員カンファレンス、ユニットミーティング時にケアの振り返りや意見交換して認識を共有しており、適正化を目的に委員会も年4回開催している。言葉による拘束も含め不適切な言動には、その都度助言し合っ て自由な生活の支援に努めている。センサーの利用については家族の了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修・勉強会を行い全員の学びの機会を設けている。日常的に基本的人権や尊厳を重視して、入居者の安心・安全な環境やケアの提供を行い虐待防止に繋げている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の権利擁護の関する理解向上の為権利擁護や成年後継人制度についての研修を行い理解を深められるように努力をしている。今後状況に応じながら適時関係機関との連携を図りながら活用していく		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の契約締結時には互いに契約書の読み合わせを行い、入居者や家族の疑問点を随時質問出来るようにしている。契約の解除時や改正の等の際はその都度十分な説明を書面と口頭で行いその内容を理解して頂ける様に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置することで随時、意見や苦情等を受け付けている。また家族会開催の時期にはご家族へ匿名のアンケートを送付し、その内容を公開すると共に施設運営に反映できるように努めている	利用者や家族には日頃から意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに配慮している。利用者の思いは日常の会話や仕草等で汲み取り、家族からは面会や電話、手紙、家族会（現在は中止）等で、また、意見箱も設置して把握に努めている。毎月発行の「風のたより」には写真や利用者毎の生活状況をコメントで伝え、要望等の把握に繋げて改善を図っており、家族との信頼関係を築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回の職員カンファレンスやユニットミーティングを行い職員間の意見交換や情報収集が行える様に努めている。又、日常的に意見を出しやすい環境作りに努めている	管理者及び職員は気軽に意見を言い合える信頼関係と「お互い様」の気持ちで協力する関係を築いており、日常のケアの中や職員カンファレンス、ユニットミーティング等で意見や要望を出し合って改善を図っている。日常的にケアに対する助言や指導、研修に努め、勤務シフトには有給休暇や休憩時間の取得や個人的事情等も配慮して働きやすい職場づくりに取り組んでおり、法人による給与や資格手当等の体制が整備されて、職員の意欲向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の目標や業務に対する姿勢を把握し、各人が目標を持ち業務に取り組めるように、客観的で適切な助言・評価が支援が行える様にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間5回の法人内研修の機会を設けている。外部研修にも参加できるように随時研修案内を行っている。現在はコロナ禍の為外部講師を招いての法人内研修実施が困難な状況であるが教育の機会を失わない様になっている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在コロナ禍にある為、法人外同業者との交流は出来ないがネットワーク作りやオンライン研修等の参加し介護の質の向上の取り組みに努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との事前面談や関係機関から頂いた情報を基に本人の「思い」を確認する。それらを踏まえてその「思い」に沿ったケアプランの作成を行い安心の確保に努めていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるにあたり家族の不安等や困り事の聞き取りを行いこれまでの介護に対する労いや、これからの要望等の把握を行い信頼関係が構築出来るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には面談を行い、本人、家族の希望に寄り添える支援を行いサービスの検討を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者自身が「出来る事はする」という意識が持てるように生活の中で働きかけている。周りの方と共同作業をする事で自身の居場所作り・生活者として支え合えるような関係性を築いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会・外出の制限が行っているが家族との連絡が途切れないようにビデオ通話や手紙の取り次ぎを行い支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴を把握し本人が好まれる事や馴染みの人達との交流が途切れることなく継続できるように支援を行っている。現在コロナ禍の為面会の制限はあるがライン面会等を活用し交流が図れるように支援を行っている	利用者毎の馴染みの状況を共有し、家族の意向も確認しながら支援に努めている。感染予防に配慮し家族との面会や他科受診時の家族との通院、訪問美容、高校生の職場実習等を実施し、駐車場で散歩時には地域の人との挨拶を楽しんでいる。電話や手紙を取り次ぎ、毎月発行の「風のたより」には利用者毎に写真やコメントを添えるなど関係の継続に取り組んでおり、携帯電話を所有している利用者は日常的に家族等との会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーション活動・家事活動にて入居者同士関わり合いが出来るように職員は支援を行っている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も本人や家族からの相談があれば対応し転院先の病院や施設等に情報の提供を行い関係を断ち切らない支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活環境やサービス利用の経過や本人の思いを把握し家族の話や情報提供書、関係機関からの情報収集を行いアセスメントに生かしている	重度化して会話が不自由な利用者もいるが、それぞれの思いを日頃のケアの中での触れ合いや見守り等で汲み取り、「まるごとケアシート」も活用して、その人らしい生きがいのある暮らしとなるよう家族とも連携して支援しており、選択肢や問いかけるような働きかけで利用者の自己決定を尊重している。全員での活動に加え、各利用者の習慣や趣味（読書、新聞読み、ぬり絵他）、家事（調理や片付け）への意欲等も把握し、プランに反映させて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や環境等を把握しケアへの取入れに努めている。ケアを行う際は本人の意向を重視して尊厳を保持出来るように支援をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録による情報収集や申し送りによって職員間の情報共有に努めている。また日頃のコミュニケーションから入居者本人の思いや希望を聞き自己決定出来るように働きかけていく		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族・主治医・居室担当職員から介護支援専門員がそれぞれの意見を収集しそれらを踏まえてケア会議を実施し現状に即した介護計画を作成している。各担当職員がケアプランの評価やアセスメントを行い、他ユニット職員の意見も併せて介護支援専門員の視点と統合し介護計画の作成を行う	利用者や家族の思いを把握し、主治医の指示や3ヵ月毎のモニタリング及びカンファレンス時の職員意見を基に習慣や趣味、楽しみ事にも配慮した介護計画を作成している。定期的な見直しのほか、状態の変化時には実態に沿った計画に変更しており、計画の内容は家族にも説明して理解を得ている。ケアの実施状況は申し送りや業務日誌、各種のチェック表等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をよく観察して介護経過を記録している。日勤から夜勤への申し送りを行い、入居者の状態や実施したケアなどを記録から読み取り情報の共有を行っている。また、ケアプランの見直しにも生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランは入居者の希望や思い・現状に即したものを作成し、ケアは入居者一人一人に対応するように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて地域の方々からの助言や情報等を取り入れるようにしているが、現在はコロナ禍により地域との交流が行えていない状況である		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や医療連携看護師による定期的な診療や健康チェックをうけて入居者の情報共有や意見交換をして適切な医療や看護が受けられるように支援している	本人及び家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、現在は殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療や通院が実施され、他科受診は家族と協力して同行し訪問歯科も実施している。週1回、医療連携による看護師の訪問があり健康管理や衛生面の助言が行われ、家族及び協力医療機関とは密に連携を図っており、利用者や家族の信頼と安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員からの報告を基に看護師の定期的な健康チェックを週に1回実施入居者の健康状態や日々の生活での困りごと等の情報を共有し意見交換や助言を頂き適切な受診や看護が受けられるように連携し支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入院時には医療機関に介護情報提供を行い正確な情報提供を行っている。早期退院に向けて医療機関・関係者との連絡体制・情報共有・関係づくりをおこなっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族に医療連携体制・重度化・看取りの指針を説明し理解を頂いている。又、終末期・看取りと主治医が判断した時には、家族・主治医・介護職員でカンファレンスを行い入居者に寄り添った医療・介護の連携、理解の共有を図っている	重度化や終末期の対応については指針を整備し、入所時や病状の変化に応じて本人や家族に説明して理解と同意を得ている。利用者が重度化した時点で十分に話し合いを行って可能な限り希望に添った支援をプランに反映させて取り組んでおり、これまでも看取りを実施している。現在、肝臓がんの利用者の看取りを想定したケアに取り組んでおり、重度化や看取りに関する研修や意見交換を行ってスキルアップや不安感の軽減に努めている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍における実践的な救急救命の研修を実施し各自レポート作成にて復習を行う事で対応を行える様にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を実施し、全職員が避難経路・警報システムについて把握できるように実施している。実施した結果を運営推進会議で報告し地域からの情報収集や情報共有を行える様になっている</p>	<p>消防署の協力を得て年2回夜間発生も想定した火災中心の訓練を同ビルの事業所全体で実施し、避難や通報、消火器等の取扱いも研修している。日頃からコンセント等の清掃に努め災害パターンに対応した避難経路（風水害時は5階へ避難等）の確認、地震災害の事例を基に意見交換するなど、認識を共有している。スプリンクラーや自動通報装置、消火器等が設置され災害時の食料・飲料水、介護用品等はユニット毎に備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけを心掛けて職員一人一人が意識してケアにあたっている	人格の尊重やプライバシー確保、守秘義務については運営規定等に明記され、法人全体での研修や職員カンファレンス及び日常のケアの中で認識し、適切なケアの実践に努めている。利用者の思いや特性を大切にしたケアに日々心掛けており入室時の声掛けやノック、衣服の選択、余暇時間の過ごし方等は自己決定を尊重している。ホームはプライバシーに配慮した構造で、居室の名前は利用者の意向に沿って表示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで職員は入居者の自己決定が出来るようにコミュニケーションを図る中で自己決定が行える様に支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方が穏やかに過ごして頂くという事を第一としてそれぞれのペースで安心して過ごして頂けるような活動の提供や声掛け等々に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整容や着替えなどにおいて入居者気の提案や選択肢の提示をし、意思決定の支援をしている。現在コロナ禍により定期的とは行かなくなったものの訪問理美容にて散髪を行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューを職員と考えて料理のレシピや素材そのものに触れる事を通して食事を楽しめるようにしている。又、食後の片づけなどできる範囲内で協力を頂いている	利用者の好みや栄養バランス、状態に応じた形態、季節感、アレルギー等に配慮し、季節の行事食や誕生日の希望食、ケーキ、レストランの仕出し、手作りのおやつ、屋上での茶話会等、日々の食事が楽しみなものとなるよう工夫している。5人の利用者が食事介助を要しているが軽度の利用者は食材の下処理や片付け等を楽しみながら一緒に行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食等は現在控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて調理している。毎食の食事量と水分摂取量を把握を行っている。飲水量が少ない方には本人の好まれる飲み物を随時提供し1日分の水分が取れるように支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケアに努めている。必要に応じて訪問歯科の依頼・指導をもらい口腔内の清潔保持・機能保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄が継続して行える様に定時・本人訴え時にトイレ誘導を行いその方1人ひとりの排泄パターンの把握に努めている	身体の状況や習慣、排泄リズムに配慮し独自のサインも見逃さずに、また重度の利用者（3人）には二人介助で昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。現在、1人の利用者が夜のみポータブルトイレを使用している。身体の状況に応じた介護用品やケアの方法をプランに反映させ、便秘予防に食材や水分量、運動等を配慮しており、状況によっては主治医の指示で下剤を服用して悪化を防いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録に残し、申し送りにて職員間で情報の共有を行うその方の状態に応じて冷水サポートや下剤を服用して頂き排便を促している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日を決めて、週3回の入浴を支援している必要時にはその都度入浴支援を実施している。曜日や時間を決めずいつでも入浴が出来るという支援は現在は人員配置上困難である。	週3回午後の入浴を基本に、2人介助や清拭、シャワー浴も行って清潔を保っている。温度や時間、同性介助等は意向に沿って可能な限り柔軟に対応し個浴で気持ちよく楽しんでもらい、入浴後は水分補給や軟膏の塗布等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで時間や声かけ等の工夫で意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に臥床を希望された場合は時間を決めて休んで頂いたり夜間帯の睡眠状態に支障がない程度に休んで頂いている。夜間はそれぞれの入床時間に応じて介助を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的、副作用、用法を理解する。容量は居宅療養管理指導の下届いた物の用法を守りその日の服薬担当者が責任を持ち誤薬や飲み忘れがないように服薬支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体を動かす事、季節の壁絵など物を作る事、洗濯物を干したり畳んだり、お茶の袋詰めやお盆ふきなど家事活動の役割を持ち生活を重視した支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍で外出することが難しいが屋上や駐車場への散歩を一定の条件の下に実施している。また茶話会を屋上で行ったり気分転換が図れる機会を持つように努めている	コロナ禍により外出計画も実施出来ない状況であるが、利用者の状態に応じたケアで屋上や駐車場での日光浴や散歩を実施し、職員が撮影した周辺の風景の動画を楽しんでいる。他科受診は原則家族の同行で実施しているが買い物や外食は控えている。室内での軽い体操やゲーム、テレビや音楽の視聴、季節に応じた作品作り、屋上での茶話会などレクリエーションを工夫してリフレッシュを図っている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者の方がお金を持つ事で安心が得られる時には、ご家族と協力し支援に取り組んでいる。コロナ禍で買い物にいけない状況なので要望があった時は家族へ連絡行い購入依頼を行っている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望に応じて電話での会話やライン面会なども活用して家族とのコミュニケーションが図れるようにしている。レクレーション活動で年賀状やクリスマスカード等の作成をし家族への送付を実施している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>物や人の環境を整えて、入居者が安心して生活できるようにしている。季節を感じられるように一緒に壁紙作りに取り組んだりしている。混乱が生じないように掲示物にも配慮している</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは、明るく余裕のあるスペースが確保され開放感に満ちており、眼下に街並みや車等の往来が眺められている。活花や季節感のある利用者の作品が飾られ、台所からは調理の音や匂いが伝わるなど、家庭的な雰囲気である。テーブルセットやテレビ等が利用者の動線に配慮して設置され、清掃や空調、衛生管理等を徹底して快適に過ごせる環境になっており、利用者は好みの場所で平穩に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>座席など入居者同士の関係性や相性などにも配慮しながら声かけを行い毎日を少しでも楽しく過ごせて頂ける様に工夫をしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅にて使い慣れた家具を居室に持ち込んでもらい、居心地が良く安心して過ごして頂ける様に支援を行って居る。</p>	<p>居室はフローリングの床に掃出し窓でベランダもあり、明るく余裕ある広さが確保されベッド、エアコンが備えられている。利用者は長年愛用していた寝具やテーブル、リクライニングチェア、家族写真、位牌等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いで頂いた品物等も飾って、家庭同様に落ち着いて憩える雰囲気の居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立支援と安全な環境作りに努めている。入居者の出来る事を職員が把握したうえで本人の自身や身体機能が維持できる生活が送れるようにしている</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない